

Patrinia scabiosifolia Fisch. var. **crassa** Masamune et Satomi, var. nov.

Herba cum inflorescentia 25-40 cm alta. Folia crassa, saepe non pinnata et supra vix nitida.—Hama-ominaesi.—Hab. Honsyu: Sibagaki, Hakuigun, Prov. Noto (N. Satomi, Sept. 25, 1952—Typus in Herb. Fac. Sci. Univ. Kanazawa).

アマドコロ属の一自然雑種 (原 寛) Hiroshi HARA: A natural hybrid of *Polygonatum* in Japan.

奥多摩の氷川から六ツ石山への登路にあたる絹笠部落近くの林下で、確かにナルコユリとミヤマナルコユリとの自然雑種と思われるものを黒沢幸子氏が採集した。葉は長楕円状披針形 (7-11×1.5-2.7 cm) で一見ナルコユリに近いが、花序は斜め横下に開出し、花糸には短い毛があり、葉形、花糸の形、花冠内面の毛などでもミヤマナルコユリとの中間的性質を示している。ミヤマナルコユリとは葉が狭長で、花序が斜めに垂下し、花冠内面花糸の癒着点の下部から花糸にかけての長軟毛がなく、ただ花糸に短毛があるだけで、花糸の下部が少しく細まっているなどの点で異つている。同地にはナルコユリもミヤマナルコユリも普通に見られ、この両種間の自然雑種と推定される。その花粉は50%以上が不稔性であり雑種であることを裏付けて居り、ナルコユリ、ミヤマナルコユリでは共に不稔性の花粉は2%以下にすぎない。和名はタマ(多摩)ナルコユリとする。

Polygonatum* × *tamaense Hara, hybrida nova (Fig. 1).

Polygonatum falcatum A. Gray × *P. lasianthum* Maxim.

Differt ab *P. falcato* et *P. lasiantho* pedunculis oblique divaricato-pendulis, filamentibus breviter pubescentibus, polliniis ca. 50% sterilibus, etc., et a posteriore foliis oblongo-lanceolatis, tubo corollae inferiore intus non pubescente, filamentibus basi paullo constrictis.

Hab. Honshu. Prov. Musashi: Kinugasa prope Hikawa, (S. Kurosawa, Jun. 14, 1953—typus in Herb. Univ. Tokyo).

中国(周防)地方から記載されたホソバコナルコユリ *P. tenuiflorum* Koidzumi は概形が似ているが、花糸は無毛で花序は基部から垂下している様子で、ナルコユリに近く雑種とは判定し難い。本属における自然雑種はヨーロッパでは知られて居り、我国でもそれと疑われる形のものはあつたが雑種として報告されたものは今迄なかつた。

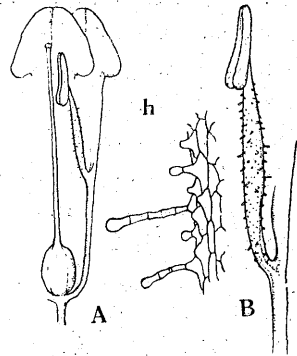


Fig. 1. タマナルコユリ
A. 花の縦断面(×2),
B. 雄蕊, h. 雄蕊の毛